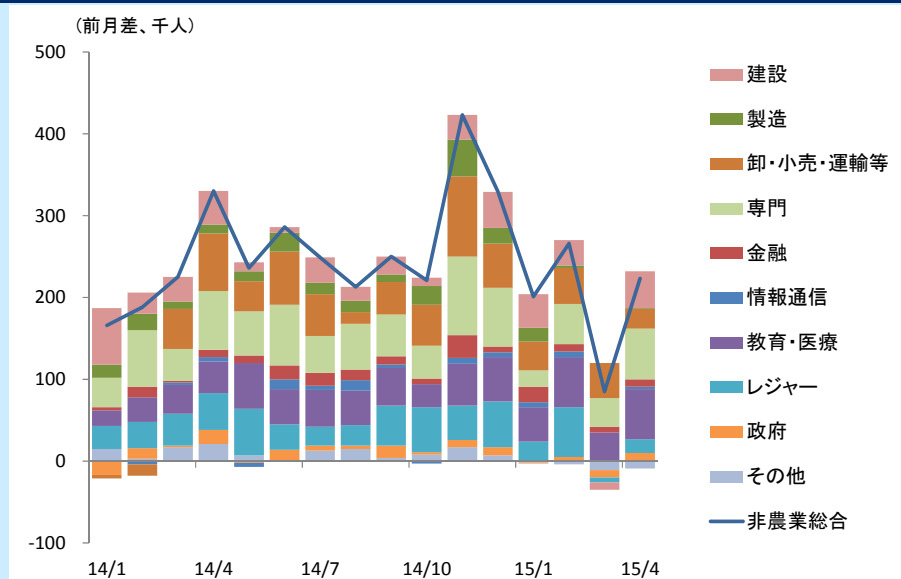


米国：雇用統計（2015年4月）

MRI Daily Economic Points
May 12, 2015

図表1 非農業部門雇用者数（前月差）



図表2 労働生産性



資料：米国労働省

評価ポイント

今回の結果

- 4月の非農業部門雇用者数は、前月差+22.3万人増となった。2月(+26.4万人→+26.6万人)は小幅上方修正された一方、3月(+12.6万人→+8.5万人)は下方修正。
- 内訳をみると、専門・ビジネス(同6.2万人)、教育・医療(同+6.1万人)、建設(同+4.5万人)などで増加したが、鉱業(同▲1.5万人)はシェール関連投資の手控えにより4ヶ月連続で減少。製造業も、ドル高を背景に15年以降は月平均で0.5万人増と、14年(同+1.8万人)から増加ペースが鈍化している。
- 4月の失業率は5.4%と前月(5.5%)から小幅低下し、08年5月以来の水準まで改善した。仮に月20万人ペースで雇用者数が増加する場合、15年半ばにはFOMC参加者が想定する長期均衡失業率(5.0~5.2%)まで改善すると試算される。労働参加率は62.8%と前月(62.7%)から小幅上昇した。
- 平均賃金は前年比+1.9%と前月から変わらず、伸びの鈍い状態が続いている。鉱業(同▲1.02%)では5ヶ月連続で前年比マイナスとなった。5月6日に公表された労働生産性指数は同+0.6%と伸び悩んでおり、賃金上昇率の足かせとなる可能性がある。

基調判断と今後の流れ

- 4月の非農業部門雇用者数の増加は、寒波の影響を受けた3月から伸びを高め、再び20万人を超えた。15年以降は月平均+19.4万人増と、同じく悪天候の影響を受けた14年1-4月平均(同+22.7万人)に比べて増加ペースは緩やかになっているが、雇用市場の改善が続いていることが確認された。
- 堅調な内需により非製造業を中心にISM雇用指数が底堅く推移しているほか、求人数も上昇しており、企業の採用意欲は根強い。ドル高や原油安を背景に一部産業で雇用が伸びにくい状況にあるものの、総じて見れば、米雇用市場は改善基調を維持するとみられる。